

小金井市立保育園の今後の運営に係る保護者説明会 議事録（質疑応答）

日時：令和3年10月16日 午後2時00分～午後4時19分

会場：西之台会館 A会議室

対象：5園全ての保護者

参加者数：11人

【質疑応答】

○三浦保育課長 では、着座のままでご発言は結構でございます。よろしくお願いたします。皆様、いかがでしょうか。

じゃあ、後ろの女性の方、お願いたします。

○参加者 すみません、勉強不足で知らないことが多いんですけども、そもそも教えていただきたいのが、この国からの支援が私立保育園と公立保育園で何でこんなに違うのかというのは、どういう国の方針というか、どのようにしたいことがあって、このようなことになっているんですか、そもそも。

○三浦保育課長 じゃあ、まず、事務方のほうで、いいですか。

○平岡保育政策担当課長 平岡と申します。よろしくお願いたします。

国のほうで、こういう改革が行われた頃の話なんですけれども、これまで、公のほうで行っているサービスがとても多かった中で、民間のほうにできることは委ねていこうという動きが国のほうで起こりました。具体的にちょっと保育園以外に今すぐ浮かぶものはないんですけども、公立であったりとか、市がずっと単独で行ってきたものを民間さんにお願していくものがあつたと思います。国のほうだと、ちょっと時期は違いかもしれませんが、一番分かりやすいのは、郵便の関係が、郵政公社になったりとか、変わっていったところもあつたと思うんですが、保育園の部分についても、民間でもととできる事業ではあつたんですけども、国のほうとしては、民間活力の導入ということで、直営で行っていく費用については、国や都のほうからのお金を出すというのをやめるような方針が出たのがちょうどこの頃ということとなります。

○西岡市長 ご質問いただきまして、ありがとうございます。若干補足をいたします。

全体的な国の当時の流れなどについては、今、担当からお答えがあつたところがございます。いわゆる公民連携、アウトソーシング、民間活力の導入というのは、小金井市

のみならず、行政が行う様々な分野でいろいろな検討が行われてきているところがございます。小金井市におきましても、いろいろな分野で、例えば市民課の窓口も民間企業の方々に手伝っていただいたり、いろいろな分野で民間活力を導入する流れ、サービスの向上という視点はあるものでございます。

ちなみに、多摩26市の公立保育園の状況だけ一応お伝えいたしますと、平成8年の4月には、全部で保育園が492園中202園、約4割が市立保育園であったところ、令和2年、昨年ですね、令和2年の4月には、待機児童解消対策で保育園の数は全体的に民間を中心に増えまして、863園となりましたが、公立保育園の数は、逆に146園、16%となったところがございます。なお、ご参考までに申し上げますと、公立保育園がない市が、市立保育園を有していない市が一応4市あるという状況となっております。

○三浦保育課長 取りあえず、一回よろしいですか。

○参加者 はい。

○三浦保育課長 そのほか、皆様、いかがでしょうか。

じゃあ、一番前、男性の方、お願いいたします。

○参加者 どうも、●●●と申します。

結局、国がお金を出すというのは、結局のところ税金とか、結局予算付け替えの話であって、結局それは国が民間に投資しているという状態なわけであって、今は、事実、割と小金井って子育て環境については評判がいいと認識はしていて、その認識を持っている方も多分多いと思うんですね。

それって何によってもたらされたかということ、やはり50年前から、市として保育に、公立保育にという形だと思うんですけど、投資されてきた結果が今、回収されているんだと思うんですね。そういう意味でいくと、今やはり財政的に苦しい状況というのは分かるんですけども、結局、小金井市がどこに向かおうとしているのかというのが一番疑問に思うところで、例えば財政がつかなくて、極論なんですけど、保育園もどんどん潰して、いろんな会社を、大きい会社を呼び込むことによって法人税で市を潤わせようという戦略だってあるわけじゃないですか。そういう路線を示されるんだったら、それはそれで合理的だと思うんですね。

一方、子育て環境についてアピールされている、これからもそうあろうとされるのであれば、それに見合った保育環境への投資というのはあつてしかるべしなんじゃないか

など思うんですけれども、いかがお考えでしょうか。

○三浦保育課長 答弁お願いいたします。

○西岡市長 率直なご意見や疑問などをいただいてありがとうございます。

民間活力を導入しながら市民サービスの向上を目指していこうという大きな流れは、流れとしてございます。そのような状況の中で、小金井市がこれからどこに向かっていくのかと。私は、現在2期目の市長でありますけれども、小金井市が将来にわたって持続可能な自治体、まちとしてさらに発展していくためには、総じて住民福祉の増進というものにしっかり力を入れていかなければいけない。少子高齢化への時代に向かっていく中で、市として住民福祉を向上していくということがとても大切だと思っております。その中で、とりわけ、子育て・子育て・教育環境の向上は、これは福祉の向上にもつながりますし、まちづくりにもつながりますし、また、さらに、単に予算だけかければよいということだけではなくて、市民の力や地域の力、まちの総合力を高めて、大切な大切なお子様、この世に誕生した命をみんなで育てていくということが大切だと思っております。その流れが私が目指していく大きな流れです。子育て環境は、これからもさらに充実しなければいけない。

その中に、先ほど来申し上げてまいりましたように、なかなか課題となっていて実現できなかったものや、もっともっと充実していかなければいけないという保育の多様なニーズにさらに応えていかなければいけないという現状がございます。資料の12ページに、これから小金井市がどうしても拡充をしていきたいと考えている一例ということになりますが、子育て支援の中では、公立保育園の分野と保育全体の分野と、総合して書いてございますが、この分野は特にこれから拡充をさせていただきたい、そう考えております。私が市長に就任したのは平成27年なんですけれども、そのときは、児童1人当たりの、市民1人当たりの経費が三多摩26市でワーストワンでした。一番低かったです。それで、待機児童率も257名という状態でワーストワンでした。その後、私が特に、まず最初に取り組んだことは、何よりも量の確保です。待機児童を解消するということがまず喫緊の課題。そして、民間保育園の方々が事業を担っていただく上では、そこで働く保育士さんをしっかりと確保しなければいけないという課題もございました。

そういった課題を克服するためにいろいろな取組を充実してまいりました。しかし、先ほど申し上げましたように、公立保育園を取り巻く課題というのは人材の確保がなかなか難しい。民間の方々の処遇がかなり改善してきました。常時、保育園に勤務してい

ただ、方を、公立保育園につきましては、募集して、何とか確保して努力している状況。また、財政負担につきましても、建て替えにしても運営費にしても、全額が市の負担。そして、施設の老朽化という課題があります。

公立保育園はこれからも存続はいたします。そして、先ほど申し上げました12ページのサービスの拡充を行ってまいります。総じて、保育の質を、公立も民間も含めて、質を高めていく。その中心的役割を担うのは、まさに小金井市でございます。そのために新たな人材も確保してまいりたいと考えておまして、私といたしましては、この方向性で臨ませていただきたいと考えています。

また、市がどこに向かうのかという観点では、例えば税収を上げるのであれば、法人を呼び込むとか、企業誘致をしていくという方策もあるのではないかとご指摘もいただきました。

ご承知のように、小金井市は住宅都市でございます。26市には様々な税収構造がありますが、立川市や武蔵野市とは財政構造が全く違います。法人の数も違います。住民都市、住宅都市である中であっても、法人税収が少ないことや、あるいは、まちづくりの状況によって、固定資産税の収入などが他市に比べて少ないという現状はあります。そのような中で、駅周辺のまちづくりは進めてまいりました。高度化高層利用をすることによって、税収は高まってきています。例えば武蔵小金井駅の南口で申し上げれば、2回にわたって再開発を行いまして、昨年、第2地区がやっと完成をいたしました。1地区、2地区含めると、何もなかったときと、実際に再開発を行った後では、副次的な効果としての試算ではありますが、約7億円ぐらいの税収効果はあるだろうというふうに試算はしてございました。

しかしながら、今後、超高齢化社会なども迎えていく、施設も老朽化していくという中であって、市政全体に対応していく私といたしましては、この民生費と呼ばれる住民福祉は、これからもずっと右肩上がりです。そして、公共施設のうち約6割を占める学校、小学校、中学校の長寿命化対策や改築という、これはもう絶対に避けては通れない小金井の小・中学校も相当老朽化してきてますので、子どもたちのために、未来のために限られた財源を有効に活用しながら対応していくという、そういう責任を負わなければいけません。そういう状況の中であって、今般、申し上げましたような方針案をまとめさせていただいたという状況であります。

駅周辺のまちづくりは、これからも進めてまいります。これから武蔵小金井駅の北口、

東小金井駅の北口の区画整理事業など、私は、利便性の高い駅周辺のまちづくりと、小金井の貴重な自然環境というものをやっぱり調和させながら、住宅都市として発展していくまちであってほしいと考えておりますので、そういう方向で臨ませていただきたい。子育て・子育て・教育環境の向上は、これからも小金井市がさらにさらに向上させていかなければいけない分野だとは十分認識してますし、その決意で市政運営に臨んでまいりたいと考えております。

○三浦保育課長 一旦よろしいですか。もう一回ご発言されますか。

○参加者 質問というより。

○三浦保育課長 はい。

○参加者 どうもありがとうございます。

やはり住宅都市として、それこそ高層マンションなどがどんどん建っていつている。そうすると、近隣のというわけじゃないですけど、そうでない地域に比べると、やはり共働き世帯がどんどん増えていつている。小さい子どもを預けないといけないという状況において、やはり安心して子どもを預けられる、安心して暮らせる、安心して教育を任せられるという状態を大いに期待されると思います。住宅都市として、いろいろマンションを開発して、受皿を大きくしていく中において、保育の質の担保というのも非常に大事なところになっていくと思いつている、その中で、今まで公立園が果たしてきたモデルというんですかね、その小金井の保育園の保育の在り方とか、教育の目指すべき形つて、どうあるべきかというものの一つのガイドラインというか、モデルケースとして公立保育園が機能していたと思うんですね。

その公立保育園がどうしても、あんまりというか、今と同じような規模を維持できないとしても、公立保育園が果たすべき役割ということに関しては重々認識していただいた上で、今後も活用していただくように、たくさん検討していただきたいと思いつています。

○西岡市長 ありがとうございます。

公立保育園への高いご評価をいただいております。誠にありがとうございます。

長い歴史の中で、たくさんの卒園児が巣立ち、そこで保育士の皆さんもいろんな経験を積ませていただいて、子どもたちと一緒に育てていただいたんだと思いつています。その公立保育園で培ってきた様々なよい面、これからも残していきたい面というものは、しっかり継承してまいります。公立保育園は2園存続するとともに、その公立保育園で培つ

てきた様々な経験を巡回保育チームというものも新たに設置いたしまして、公立、民間含めて、小金井市全体の保育の質を高めていくというフェーズに入っているんだと思います。その取組にもっともっと力を入れなければいけないし、スピード感を持って取り組まなければいけないという認識でございまして、今年の令和3年4月に初めて、今まで全く存在しなかった、小金井市の独自の保育計画、保育ビジョン、それから、この質を高める保育の質のガイドラインというものを専門家も交えて、かなりの期間、1年数か月、コロナで延びましたので、二十数回もの会議を重ねてまとめ上げていただきました。

市長としては、この公立も民間もともに、共通の旗印として、横串が刺さるような、どの保育も、保育士さんも、保育園も、公立、民間問わず、この中に明記されている目標や保育の質を高めていくという様々な取組を実践していくことで小金井市全体の、公立、民間含めて、保育の質を高めていかなければいけないという強い強い認識を持ってございまして、その方向でぜひ取り組ませていただきたいという考えでございまして。

ご承知のように、これからももちろん新たに転入してくる方もいらっしゃいます。また、逆にいろいろな事情で転出されていく方もいらっしゃいます。確かに令和2年度は、小金井市、都内で初めて人口の増加率が1位になりました。しかし、今後の人口動向を見ますと、令和13年頃に全体の人口はピークを迎え、そこから緩やかに減少する。年少人口は、令和7年、8年をピークに緩やかに減少していく。現に、現在、0歳児の人口も減少傾向に入っているという状況。昨年4月1日に0歳児の保育園、51人の空きが生じているという、そんな状況でも1歳児の方々の対策をしなければいけませんので、来年は4園、新たに認可保育園を開設いたします。これで待機児童については、さらに減少傾向に入っていくだろうというふうに、責任を果たせるだろうと思っておりますが、現在もなお、子どもを預けることができず、待機児童の発生してしまっている点は、市長といたしまして、大変に申し訳なく思っております。今後を見据えたときに、過剰な、飽和状態の定員数というものは、これはもう園全体にいろいろな影響が及んでしまいますので、この量の面での適正化を図っていくということも必要でありますので、将来の人口動向というものを見据えながら対応していくことが求められているというふうに考えているところでございます。

保育園、公立保育園、それから、小金井市の場合は、小学校に上がりますと、一定の基準はございますが、学童保育所への希望者全員入所というのを堅持してまいりました。

これからも学童保育の分野でも、その全入措置というものはしっかり堅持していきたいと思っています。老朽化を迎える学校についても、子どもたちが、将来にわたって、安全・安心に学べる環境をつくっていかねばいけないとも考えています。そういったもろもろの責任を果たしていくためにも、限られた財源の中でどうやって効率的に行っていけるか、こういった点にも市長としては十分意を酌みながら対応させていただきたいと、全力を尽くしてまいりたいと、このように考えているところでございます。

私からは以上です。ご意見いただきましてありがとうございます。

○三浦保育課長 一旦、次の方でよろしいですか。

次、ご発言予定されている方、いかがでしょうか。女性の方、お願いいたします。

○参加者 すみません、今回の廃園の内容を受けまして、量と質の二つの面でちょっと不安に感じたことがあります。まず、量の面なんですけれども、2ページ目のところで、先ほどお話にもあったとおり、1歳児のほうは待機児童がまだあるけれども、0歳児のほうは51人空きが出て、なので、今後減っていくだろうから公立保育園を減らしていても問題ないんじゃないかみたいなふうに聞こえたんですけども、1歳児のほうの対象児童が多いのは、恐らく会社等の産休制度の充実によって、0歳のうちはまだ預けないけれども、1歳児になってから預けたいという保護者の方が増えたからだと思うんですね。

なので、今後もそういう傾向は続くでしょうから、0歳児の空きが多いからといって、減らしていいという問題にはならないんじゃないかなというふうに感じました。

一方、あともう1点、質の面なんですけれども、公立保育園を減らして、民間保育を増やすというところにおいて、市からも、ホームページの質疑応答の内容を見たところ、そういう、何で室のような公立保育園を減らして、民間保育園を残すんだみたいな質問に対して、民間保育園も国の基準を満たしていますよみたいな回答だったんですが、私も、子どもを民間の保育園と公立保育園と両方とも預けた経験もあるんですけども、私を感じたところだと、公立保育園のほうの方が私はとってもいいなって感じておりました。

なので、民間保育園が国の基準を満たしていたとしても、やっぱり小金井保育園の公立保育園の質はとても高いので、それをなくすことによって小金井市全体の保育の質が下がってしまうんじゃないかなという懸念があります。

特に小さい子、0歳とか1歳の子どものための保育の質に関しては、命にも関わることで、必ずそこは、安心・安全な保育の質のところを確保していただきたいと思っております。特に公立保育園ですと、保育士の方がベテランの方、多くて、安心でき

たりですとか、園庭も広いですし、給食も手作りでおいしい給食を出していただいと  
いうところで、基準とか、そういうところではかれないとていいところがあるので、  
そういうところを、巡回のチームを回してくれるということだったんですけど、それだ  
けで果たしてほかの民間保育園が今の公立保育園ほどの質に追いつけるかというか、と  
いうところがちょっと疑問なところがありまして、なので、もしそういう財政効果もあ  
るといってお話もあるんでしたら、民間保育園の質のほうの向上について、もうちょっと  
積極的に対応していかないと、質のほう心配かなというふうに感じました。

○三浦保育課長 質問的には2点でよろしいですかね。

○西岡市長 ありがとうございます。

1歳児のところの対策が極めて重要というところは、もうまさにご指摘のとおりであ  
ります。これまでも1歳児対策にかなり力点を置き、民間の方々にもいろいろなご協力  
をいただき、また、公立保育園のほうでも、できることはやりながら、おっしゃるとお  
り、1歳、これは産休の取り方、育休の取り方などが、制度が企業側のほうで変わって  
きていますので、そういったところは十分理解してございますし、市民の方々からも  
様々な声を、この待機児童対策ではいただいたところです。その点については、後ほど、  
また担当のほうからも補足で答弁があればお願いします。

質の面です。民間保育園のほうの質をもっともっと高めていくこと、公立保育園の優  
位性、それから、公立保育園の園庭や給食のこと、子どもたちの安心・安全を守ること、  
公立保育園が減ってしまえば、全体の質が下がるのではないかと、様々な不安やご懸念の  
声をお寄せいただきました。

小金井市といたしましては、ご覧になったかと思いますが、この小金井市すこやか保  
育ビジョンというところに、どうやって小金井市全体の保育の質を高めていけるのか、  
向上していけるのか、維持向上できるのかというところのページがあるんですけども、  
このように明記させていただいております。「保育の質の維持・向上に当たりまして、  
各現場で目の前の実際の子どもの姿をもとに、保育実践をより良いものにしていく取組  
が日常的・継続的に行われることが重要です。小金井市は、子どもの最善の利益を保障  
するために、保育現場の保育者一人ひとりの自らの資質や専門性の向上を図る取組を支  
援するとともに、市として次の取組を推進することで、地域全体の保育の質の維持・向  
上を図ります。」としてございます。

具体的な項目といたしまして、時間の関係で詳細は割愛いたしますが、大きく6点、



掲げさせていただいております。一つは、保育の質のガイドラインというものを、これ、しっかり活用していきましょうということです。二つ目が保育者の研修をしっかりとやっていこうということです。三つ目が、これは民間も含めてですが、各種評価を実施していきましょうということです。四つ目が保育士の確保に取り組んでいきましょうということです。五つ目が保育分野におけるネットワークづくりに取り組んでいきましょうということです。六つ目が幼稚園、保育園、小学校の連携を推進していきましょうということで、ご指摘のように、巡回チームを回すだけで保育の質の向上が図れるとは思っておりませんで、様々なことが複合的に要因となっていくと難しいと思います。

一方で、民間保育園の方々は民間保育園で独自の保育理念を持ち、東京都の児童福祉審議会の審査を経て、第三者評価委員会や東京都の監査など、もちろん保護者の方々のチェックを受けながら、毎日のように保育を実施していただいております。

そういった多様な保育園が存在していますが、私どもとしては、どの保育園でも、どのような立場の保育士さんであっても、小金井で保育をする皆様方には、この小金井市すこやか保育ビジョン、保育の質のガイドラインと今後の保育の施策の方向性というものを共有していただけるように、しっかり努力をしてまいりたい。その上で、土台となる一つ的前提条件となりますのが、この巡回チームの存在であるというふうに考えているところでございます。

ご指摘の点は、大変重要な視点であると思っております。まさに命に関わることでありますから、大切なお子様、この世に誕生した大切な命が安心・安全な環境の中で育っていく、成長していく、そういう環境を、何としてもこれからもつくってまいりたいと、そのように考えているところでございます。

○平岡保育政策担当課長 平岡と申します。よろしく願いいたします。

まず、量の件で市長からもお話しさせていただきましたが、確かに待機児童の最後の課題は1歳という認識は持っています。今まで運営されている保育園さんではなかなか難しいんですけども、新しくできる保育園さんに対しては、1歳からの保育園というふうな形をお願いをしている例があります。今年の4月に一つ、来年の4月に二つ、そういう園ができます。

ご承知のとおり、0歳から1歳へ進級することになりますので、0歳と1歳の定員数の差が大きくないと、開設から1年目はいいんですが、2年目以降については、新規の1歳の受入れ人数というのがとても少なくなってしまう例があります。かといって、今

まで運営されてきたところで0歳児の定員数を減らすのは簡単ではないものですから、そういった形の取組をさせていただくことで、恒常的に1歳の新規の受入れの数を増やすという取組をこのところでさせていただいているというところがあります。

それから、質の件についてでありますけれども、公立と民間を両方経験されて、公立のほうがというご意見をほかからもいただくところがあるんですけども、今まで質の取組については、各園それぞれの取組が中心になっていました。市のほうから、公民両方でというような取組をほとんど、まだできていない状況がありましたので、そういったアプローチをさせていただく一つの取組としてスタートするのがこの巡回保育支援チームということになりますので、質ですので、少しやっただけですぐに上がるというものではないんですけども、やはりそれぞれの園がそれぞれやるだけではなくて、市として全体を上げていくために必要な取組だというふうには思っております。

以上です。

○西岡市長　すみません、1点補足をさせていただきます。保育士の確保のところですね。民間保育園の皆様、もちろん日々頑張ってください。本当に努力していただいています。保育を行うのは、皆さんそれぞれがどこに所属しているかによらず、皆さん一人の人間でありますから、本当に皆さん一生懸命頑張ってください。

その上で、大事なことは、歴70年近い保育園もあれば、昨今誕生した保育園もありまして、また、保育理念も多様です。園の施設も多様ですが。一貫して申し上げられることは、やっぱり民間保育園の中で働く保育士さんに、せっかく小金井で働いていただいた以上は、小金井市に定着をしていただくということがとても大切だと思っております。その中で、もちろんベテランの方々、中堅の方、若い方、それぞれが多様に切磋琢磨していく。小金井では、特に国や東京都のキャリアアップにつながるような補助制度を積極的に活用しておりまして、民間保育園の方々にも多様な取組を行っていただいています。このすこやか保育の中には、このように明記してございまして、「保育の質の維持・向上において重要となる保育士の確保につきましては、小金井市として、国や東京都が実施する保育士等処遇改善施策等について最大限活用を図るほか、東京都社会福祉協議会が行っている様々な保育士支援制度の周知・情報提供を進めます。また、就職フェア等東京都が行うその他保育士確保事業に積極的に参加・協力を行うほか、市においても、いっそうの保育士確保策・離職防止策を検討していく」とさせていただきました。この取組を着実に進めてまいりたいと考えているところでございます。

○三浦保育課長 一旦よろしいですか。

○参加者 ありがとうございます。

○三浦保育課長 すみません。

正面の女性の方、お願いいたします。

○参加者 すみません、本日はありがとうございました。

市長のお言葉にあった中で、限られた予算の中で選択と集中をするということに、複数園を廃園するという今回の方針をもって、逆に公立園を存続させたいんだというようなお話なのかなというふうに私は受け止めたところがあります。この方針自体を全体的にいかどうかという話でいうと、かなり疑問点も含めて、たくさん懸念を持っているところがあります。市長がおっしゃっていた幼保小の連携を進めたいとか、切れ目のない支援ですとか、教育委員会との連携などについては、ちょっと今ぱっと私が見直し方針の中では見つけられることができなかったもので、何かしらの方針とか、政策の中に、ご決意を位置づけていただけたらなというふうに思っています。

今回、廃園を進めるということで、サービスの拡充をするんだというお話が結構出てきたかと思うんですけども、保育ニーズの多様化というような現状分析があって、それに対して、12ページのほうで、保育サービスの拡充の概要の案というのを1から6まで出している中で、1番、2番、3番については、割とサービスの拡充というイメージというよりは、人権の面であったり、公平性の観点から必要だと、やらざるを得ないというか、やる必要のあるものなのじゃないかなというふうに思っているところがあります。

一方で、2ページの中のこの保育ニーズの多様化にあったところの「就労形態の多様化等に伴い、延長保育や一時保育、休日保育など、多様な保育ニーズへの対応」というところについては、今回のサービスの拡充の中には含まれていないように見受けられました。これについては、公立と民間とある中で、民間にお願いしたい部分なのかなというようにも感じたんですけども、そこら辺の位置づけについてどのようにお考えなのかなというところ、このままでいくということを言っているのか、民間さんをお願いをしていきたい。権限みたいなのは多分ないと、協力のお願ひみたいな形なのかなと思うんですけど、そこら辺は民間にお願いしていきたいというところで、公立と民間と、役割を分けながら、それぞれ存続をさせて拡充していきたいということなのかななんて思っているところがあります。なんで、そこら辺の位置づけの認識をお伺いしたいのが1

点と。

それで、その上で、公立と民営化は同じ役割のものではなくて、違う役割のもので、公民一緒になって小金井の保育の質を、保育サービスを全体的によくしていきたいというお話なのかなと思うんですけど、例えば、今すぐにとは決まってないんですけど、わかたけ保育園が廃園になったときに、私の地域だと、別の公立保育園に預けるという選択肢はないんですね、正直取れないんです、遠いから、取れないんですね。となったら、民間保育園に預けざるを得なくなると思います。

公立も選べる、民間も選べるというのが、選択肢として両方取れるというのがやっぱり保護者にとってはいいことで、それが5園から3園になったら、そうじゃない地域というのも出てくると思うんですけども、そこら辺の地域間格差についてどうお考えなのか、お伺いしたいです。

○三浦保育課長 ご質問、3点ですかね。お願いいたします。

○西岡市長 ありがとうございます。

私や担当から連携しながらご答弁させていただきたいと存じます。

様々な懸念があるということでございまして、十分理解をいたします。

まず、幼保小連携です。これは、教育委員会、特に私の場合は、大熊教育長が日々、本当に共にいる時間が非常に多く、毎日のように子どもたちのこと、特に昨今、新型コロナウイルスの感染拡大によっていろいろな影響を受けてますから、日夜、連携をして、協議をしています。その中で、今回の公立保育園の段階的縮小に伴って、最後の年は、これ5歳児だけになってしまうこと、これまで行ってきたような異年齢保育、集団保育ができなくなってしまうという認識があります。この幼保小連携のところは、これまでも実は小金井市の中では弱い、もっともっとやるべきだ、他市に比べて遅れている、ほかの区はこんなことやっている、ほかの市はこんな取組がある、様々なことを聞いています。接続を円滑にしたり、また、園児にとって、環境が変わる小学校に上がるときに、やはりある程度、小学校のことに対する慣れといいたいでしょうか、子どもから見てよりよい環境の中で入学につなげていく。こういったことが必要だと思ってます。

例えば、わかたけ保育園で申し上げれば、前原小学校に通う方、また、四小の方もいらっしゃると思います。もちろんその他の小学校もあると思いますが、そこには、保育園の卒園生の児童もいます、1年生、2年生、3年生にもですね。例えばですけども、そういった、これまでなかったような卒園生、小学校に通っている卒園生との交流であ

ったり、これまでになかったような新たな取組を、これはもうまさに現場の保育士さんや保護者の方々のご意見、また、教育委員会とも連携しながら、よりよい方策をつくっていきたいと思っています。

これはもう本当に大きな課題だと思っております、幼保小連携の取組をしっかりと進めていく。これは今回の段階的縮小があるから進めていくというよりは、どのような状況であっても、これ、やらなければいけないことです。まずそう思っています。そのような状況の中で、特に、くりのみとさくら保育園のほうから、段階的縮小を行ってまいりますので、近隣の小学校との交流というものを行っていく協議を今、大熊教育長とぜひしたいと。そして、教育委員会のほうも、どのような幼保小連携が望ましいのか、一緒に考えようというふうに言っていただいております、その取組をしっかりと進めてまいります。子どもたちの目線に立って、よりよい幼保小連携を進めていきたく思っております。

それから、サービス拡充のところでご質問いただいております。多様な保育ニーズの拡充という部分が12ページのところには明記がないのではないか、一時保育などなどですね。じゃあ、そのところについては、担当のほうからもご答弁させていただきたいと存じます。

○平岡保育政策担当課長 では、私のほうで、残りの部分、補足含めてお答えをさせていただきます。

まず、公立と民間の役割分担というようなご意見があったかと思うんですけれども、市のほうとしては、同じ認可保育園であるという前提が制度上ありますので、基本的には、公立だからこういうこと、民間だからこういうことというところまで、はっきり分けるという考えは、今の時点では持っていないです。ただ、小金井市という組織の中に公立保育園も入っていますので、そういった位置づけで、通常の保育以外の部分も含めて、役割を果たしていただくということはあるかなとは思っています。

そういった中で、ちょっと話が逆になってしまうかもしれませんが、今お話があった、今回の表の中に入っていない延長保育のさらなる延長であるとか、休日保育については、ほかの自治体でも対応している例があるのは聞いています。一般的に延長保育のさらなる延長については、民間さんで行われている例のほうが多いように記憶しています。一方、休日保育については、やはり利用者の方が極端に少ないという状況もあって、なかなか民間さんでは対応できていないので、公立保育園のほうでやっているような例をよく聞くところであります。

そういったところも、まだまだ多様なニーズの宿題としては残っているというふうに思っていて、それについては、3園目のわかたけ保育園をどうしていくかというときに、併せて検討しなければいけないというふうに思っています。

実は、ちょっといつだったかというのは今すぐ出てこないんですけども、民間の保育園さんで休日保育をテスト的にトライしていただいた時期があったというふうに聞いています。結構前だと思うんですが。ただ、やはりほとんどご利用者がなかったので、スタッフを抱えていく中では難しかったというようなお話も聞いていますので、そういった部分について、ニーズも改めてあるかどうかも含めて、考えていかなければいけない分野だというふうに思っています。

それから、わかたけ保育園のエリアの周りに保育園が少ないお話ですとか、今回話が出ている、くりのみとさくら保育園がなくなることで公立の選択肢が取れない地域が出るのではないかというお話もありました。私たちとしては、現在、保育園をつくっていくというか、増やしていく考え方の中では、小金井市全体で一つの地域というふうに決めさせていただいています。その理由としては、駅に向かって通勤をされる方が全体の中でかなり占めてらっしゃるという点から、あとは、市全体の面積などから、そのようにさせていただいているという状況はありました。

そうは言いながらも、確かに保育園を増やしてきた中で、わかたけ保育園さんの周辺は特に保育園の数がさほど増えていない状況があるものですので、そういった理由もあって、わかたけ保育園さんの段階的縮小のタイミングについては、一旦時期を決めないというような形にさせていただいているというのが現状であります。

以上です。

○三浦保育課長 何か追加で、ほかよろしいですか。

では、次のご質問に移ってまいります。次の方、いかがでしょうか。

2列目の男性の方、お願いいたします。

○参加者 本日はありがとうございます。

認可保育園を今年度もまた増設しますという中で、その中で廃園は公立保育園を廃園していきますというところがちょっと分からないところがありまして。先ほど、児童生徒の幼児のピークというところが令和7年という話でしたけど、そこに向けてまだニーズはあるというところだと思いますが、その中で、何でこちらは廃園しなきゃいけないのかというところは、それはピークを超えた後に、ピークを超えてもやっぱり緩やかな

減少だと思うんですけど、今なぜ廃園しなきゃならないというところが正直、納得いかなくて、この廃園の時期、今は必要ですかというところはすごい疑問に思います。

その廃園の理由の一つになっています老朽化につきましても、50年という節目の年数を出していますけど、果たして50年というところは、じゃあ、もう早急にでも駄目かという、10年、20年でもう使えないかという、そうではないとは思っています、じゃあ、その50年というくくりの中で、老朽化を理由に廃園を進めるとい、その理由は適正なのかというところも疑問に思いました。

本市の保育園について、サービスは同じというお話もありましたが、一番、私の中で大きいと思っているのは、公立保育園はどことも大きな園庭がございまして、この園庭があるかないというのは、すごい大きい違いだと思っています。ちょっとした晴れ間にでもすぐに外に出たり、子どもたちが遊べることができますし、あとは、園庭のほかにも、プールもありますので、そういう遊びもやっていると。

なお、新しくできた保育園に関しては、園庭もなかったり、プールもなかったりと、かなり遊びの幅が違ってますので、単純に基準を満たしているから、サービスとしては同じかもしれないけど、質が同じということでは決してないとは思っております。

そういうところで、あとは、公立保育園の今利用者の評価もすごい、保護者の評価も高い中で、何で廃園を進めなくてはいけないのか、全体としては、小金井市で廃園を進めなきゃいけない、一方、私立保育園を増やしてニーズを拡充するというのは、やっぱりちょっと腑に落ちないところがありますので、それを今やるべきかというところも踏まえて、ここはきちっと説明していただければと思っております。

○三浦保育課長 答弁のほう、お願いします。

○平岡保育政策担当課長 まず、人口と開設の部分のお話があったかなと思っています。このところについては、正直に申し上げますと、保育園の開設、新しいところをつくるには1年以上前から準備が必要となっていますので、今回のこの人口が減っているという統計的な新しいものが出る前の、人口が微増していく、その人口の微増に基づいた形で、保育園の整備を進める計画を持っていましたので、その結果、来年4園つくるということで動いていました。その後、今年の5月に、ここ最近の統計なども踏まえた小金井市全体の基本になる人口の新しい推計が出まして、それによって、おっしゃるとおり、令和7年で年少人口がピークになるという状況になっています。

これに伴って、保育園の今後の整備についても見直していくという考え方を持ってい

るんですが、実はこの令和7年の年少人口というののピークの部分を実は細分化しますと、未就学児の人口の減少については、既にもう予測として始まっている状況になっています。それが年少人口ということで、人口が0歳から少なくなっている割合が増えていくことによって、年少人口が7年がピークになるというような試算になっているという実は内訳でありまして。

そういったことも考えますと、時期としては、市としては今後増える見込みがあるので、待機児童もいらっしゃいますし、保育園を増やしてきたんですけども、このところで人口の予測が大きく変わったということと、実際に保育園にも空きが出ているところから、そういうような形に今回はなっているということなので。具体的に言いますと、公立2園を廃園する前提で民間を増やしているということではなくて、必要だと思って民間保育園を増やしてきたんですけど、量については、ある程度めどが立ってきた状況がここに来て出てきたというのがまず一つあります。

それから、老朽化の50年という目安なんですけど、私どもとしては、実は60年というのを一つの目安として考えています。一般的に建物様々考え方あるんですけど、60年が老朽化としての一つの節目というのはあるかなと思ってまして、それについて、段階的に縮小していく期間を十分に持つということになると、やはり今からさせていただかないと築年数60年をかなり超えていくところに行くかなというふうに思っています。

ただ、一方で、わかたけ保育園については、先ほど申し上げた事情も含めながら、状況を見ていくというようなところはお話をさせていただいたところですので、60年になる前に、もしくは60年をある程度のめどとしてというのがこの50年を超えてというのの理由となっております。

最後の園庭や、基準のところですが、確かにおっしゃるとおり、園庭があったり、プールがあったりというのは、私たちとしても、それはいいことであるというふうに思っています。ただ、一方で、やはり駅の近くの保育園を利用されたいというニーズもかなりある状況でありまして、それについては、倍率などでも状況として出てきているというところがあります。

また、保護者の方もあくまでも選択の範囲だと思いますけれども、プールを持っていない民間保育園の中には、プールがあるところに、プール教室などで大きくなったらそちらを利用するような取組を行っている保育園もあります。どれがいいかというのは、市として決め切れないところはありますけれども、そういった様々な選択肢の中でご利用



用いただいているものというふうに思っております。

私からは以上です。

○西岡市長 率直な思いをお聞かせいただきまして、ありがとうございます。

若干説明や答弁と重複してしまう部分もあるかもしれませんが、私からもお伝えしたいと思います。

私にとりましても、今回の決断は、本当に苦しい決断です。しかし、今、公立保育園の置かれている現状、人材確保が非常に困難、財政運営においても、民間保育園は様々な支援が国からありますけれども、この右肩上がりの民生費、いろいろな需要、ニーズに答えていきたい。そういう状況の中にあっても、公立保育園は、施設においても、運営においても全額市が負担していかなければいけないという状況。また、施設の老朽化という三つの課題が今私たちの公立保育園の周りには当然ずっと長い間ありました。そして、社会的には保育の質の向上を行っていくというニーズ、また、量的な部分については、かなり改善が図られつつあるというところ。そして、さらに、12ページにございますような、市としてどうしてもサービスを拡充していきたいというところ。こういったことを果たしていくためにも、今般の段階的縮小から廃園へということの方針としてまとめさせていただいたところでございます。

私としては、保育園を選ぶ基準は三者三様、市民の方でありまして、多様な選択肢があることが大切だと思っています。あくまでも立地条件、駅前というのを希望する方もいらっしゃるし、たとえ駅から遠くても、保育の環境というものを重視する人もいますし、民間の保育理念、この保育理念がとてもよいと判断される方もいらっしゃいますし、実に多様な基準で市民の方々は、そのご家庭に、また、その子どもに何が一番ふさわしいのかというところを考えて、今ある保育の資源の中から選ばれていらっしゃるかと存じます。

園庭のあることの優位性は十分理解できるところです。しかし、駅前保育を希望する方が非常に多い中、どうしても駅前に園庭のある広い保育園を整備することが東京の小金井市では、なかなか困難という状況の中にあっても、各保育園はいろんな工夫、創意工夫をしながら、本当、お散歩カーで子どもたちが今、私も小金井で育ったんですけれども、昔の光景とは一変しました。平日の午前中などは、たくさん子どもたちがいろんなところにお散歩カーでお出かけしたり、保育園の先生たちが手を引っ張って、みんなて手をつないで公園に行ったり、野川公園、武蔵野公園、小金井公園、梶野公園、栗

山公園、様々な公園を保育の一環として有効に活用していただいています。もちろん市としては、市の資源は最大限に活用していただいて、子どもたちによりよい環境をつくっていききたいと、もちろん思っています。そういう状況の中にあって、今申し上げたような観点から、本日、ご説明をさせていただいてございます方針案というものをご提示させていただいたところでございます。

お答えは以上です。

○三浦保育課長 いかがでしょう、もう一回いきますか、一回いいですか。

○参加者 コメントという形でいいですか。

○三浦保育課長 はい、追加でもう1問。

○参加者 ご説明ありがとうございます。

多様なニーズということは私も理解しておりまして、駅前を希望される方もいれば、私のように、自然豊かなところでやってほしいという方もいらっしゃいまして、わかたけ保育園に関して言えば、皆さん、裏に野川がありますと。そして園庭がありますというところを、皆さん、それがありがたいといった方が大半だと思っております。

ですので、多様な選択肢ということを残すのであれば、わかたけになってしまうんですけど、わかたけ保育園は、あの場所に保育園は存続させるべきだとは思いますが、けれども、跡地利用は決まっておらずということでしたが、それに関しては、保育園がそこにあるということはニーズとしては高いと思っております。

○三浦保育課長 ありがとうございます。

では、次にご発言される方、どうぞ。2列目の女性の方。

○参加者 本日はどうもありがとうございました。

先ほどの説明で、保育業務の財政負担の増加が見込まれたり、財源確保が難しいという中で、公立5園のうちの3園の廃園を決定されたというお話でした。その根拠として幾つか上げられている中で、老朽化の施設の建て替えが4.5億円ほど、1園でかかるとか、あと、運営費が私立よりもかなり高いとかということを示されているんですが、私とか、ほかの方もそうかもしれませんが、こうして費用負担が民間より高かったとしても、それ以上の価値が公立保育園にはあるというふうに考えています。

ですので、財源確保が難しいという状況は分かるんですけども、何とか公立保育園を残した上で、ほかのところで財源を確保する方法というのをどの程度検討されたのか。何でその案は却下されたのかというところがちょっと見えないなというふうに思ったの

が1点です。

私も民間保育園で3年預けて、わかたけに預けたという経験があるんですけど、民間の保育園ももちろん保育士さんすごい頑張っているんですけども、職員のスキルというか、勤務環境がとてもよいので、職員に余裕があって、やっぱり職員のスキルが全然違うなという印象がある。

もう1点は、民間に預けてたときでも、家の近くにわかたけがあるので、土曜日の園庭開放が利用できてすごくよかったので、やっぱり地域に一つ、公立保育園を拠点としてあるというのは、すごく民間を利用している保護者にとっても意味があるというふうに思っています。

これが1点目で、もう1点目が、先ほど西岡市長のほうで、今回の決断が非常に苦しい決断だったというふうにおっしゃったんですが、これはもう決まったことなのか、それとも、今、我々が公立保育園はすごい大事ですということを言っていますけども、こういう声を聞いて、修正していただける余地があるのかどうかというところが2点目です。

以上です。

○三浦保育課長 答弁よろしいですか。

○西岡市長 ご質問、ご意見をいただきましてありがとうございます。

まず、保育園の分野、保育の分野で、公立を存続するために、ほかの分野で、ほかの方法で財源を確保するなど、そういった取組は検討できなかったのか、また、それはなぜ、あるとすれば、却下されてしまったのかというような考えでございます。今ある小金井市の様々な保育の施策の中で、この間ずっと児童福祉費というものは毎年毎年、右肩上がりになってきてまして、平成26年、27年度と、ずっと児童福祉費という子育て、保育に関係する予算、これ1人当たりの予算は、私が市長に就任したときはワーストワンでした。多摩で一番低かったです。待機児童数も257名でワーストワンでした。そのワーストワンの状況を何とか改善していくために、いろいろな切り盛りをしながら、また、行財政改革を行った、その成果というものを子育ての分野に振り向けていけるように、いろいろなことを努力してきたのは事実です。もちろん決してまだ胸を張れる状況じゃありません。もちろん予算額が高ければ環境がいいかということでも決してありません。これは、まちの総合力だと思っております。ただ、一つの指標としては、そういう状況であります。

保育の分野、子育ての分野なので、正直申し上げまして、何か施策を止めたり、あるいはカットしたりというのは、非常に難しい分野です。もう正直申し上げまして、どれもが必要で、どれもがなさねばならないこと。今もまだまだできてないこと、やりたいこと、やらなければいけないこと、ご要望、保護者の皆様方からの満足度を高めていくために至らない点というのが多々ありますので、これからますます財源は必要になってくる分野だと。

特に、教育環境の分野などは、これから学校の施設、これは公共施設の全体の6割を占めておりますが、こちらはかなり老朽化が進んでおりまして、長寿命化対策や改築や、これは、公立小・中学校14校ありますけれども、こちらもこれから将来を見通せば、非常に重要な分野になってまいりますし、一定のかんりの財源が必要となる分野であります。

ただ、私の市長就任中には、大変これも心苦しい決断でありましたけれども、多摩地域でも保育料というものが、かなり低い段階で設定され、20年ぐらいつと保育料の改定というものを行っていなかったという現状がありましたので、保育料については見直しをさせていただきました。しかし、その後、子ども・子育て支援新制度や保育の無償化というものが入ってきましたので、そういった分野については、またさらに社会的に変化をしているという状況であります。事実としてはそういったことは行いました。

また、認可と認可外の保育でも保育料の格差がありまして、いわゆる認可外の方々の保育料が非常に高い設定になっているということがありましたので、認可であっても、認可外であっても、平準化されるように、認可外保育園、主に認証保育園に通われている皆様方の助成をするという新たな制度も導入はさせていただいたところでありまして、多面にわたって、この子育ての分野というものは、非常にニーズがどんどんどんどん高まっていくという分野だということを改めて認識しているところでございます。

今回お示ししているのは、私どもは保育の総合的な見直しに係る方針案ということでお示しをさせていただきまして、説明会に臨ませていただいております。まず、保護者向け説明会6回開催しておりまして、今日が6回目。また、10月の下旬には市民向けの説明会も2回行いまして、合計8回行わせていただきます。

また、これまでの要望の中でも、さらにこのような機会をつくってほしいという意見もありますので、私としては、ただ1回だけやっておしまいという考えはありませんので、いただいたご意見をしっかり持ち帰り、改善できるところは改善、反映できるとこ

ろはしっかり反映して、引き続き臨ませていただきたいというふうに考えております。

この段階的保育の縮小や、また、廃園というものに関しては、市議会の議決というものが必要になってくるという、これは欠かすことのできない手続というものがあるということはお伝えをさせていただきたいと存じます。私だけで決められるものではない。しかし、市長としてはこの方針案でいきたいということを決断させていただいたということをお知らせさせていただきました。

○平岡保育政策担当課長 では、若干補足をさせていただきます。

これまで公立を残すための努力というところで、実はほかの会でも、もう少し強めなご質問もあったんですけども、そのときには、ここまできちんとお答えはできなかったんですが、実は小金井市自体が市政を運営していく上で、かなり窮地に陥った時代がありまして、ちょっと時期は今すぐ出てこないんですが、職員の退職金が払えないかもしれないというぐらいの時期がありました。そのときに、一番問題になっていたのは、一人一人がどうというわけではなくて、職員の数がとても多い。人件費率が高いというところがとても問題になっていました。そのために、それが一番の問題だったところでスタートしたのが平成9年の最初の行財政改革というもので、改革をしないと、しなければいけないことが、まずできないというところもあつてのスタートになっていました。それに基づいて、市のほうで直接やっていた、職員がいて直接やっていたものを委託したり、民間さんをお願いしたり、様々な分野で改革を行ってきたという状況があります。

その結果の評価もご意見は様々なんですけども、そういう歴史があった中で、公立保育園、保育園の業務については、それについては今まで一切、手をつけてこなかったという状況があります。一部、職員の中で用務さんとか、以前、正規職員がいたんですけども、非正規の方に替えたりとかというのはあったと思うんですが、ここまで大きな改革というのは、例えば学童の委託であったり、学校の給食の委託であったり、清掃業務の収集の委託であったり、そういうようなところまで踏み込んでいる例は、保育園についてはまだ行われていないという状況ですので、お金に色はついていないんですが、今、市長がお話ししたとおり、児童福祉費がずっと増えてきているというのは、当然、全体の中でのことになるんですけども、ほかで改革をしてきた中から回ってきているお金も一部入っている可能性はあると思っています。

ただ、そこまでやっても、今後も必要となってくる新たなニーズであるとか、残念ながら、ちょっと私が言う話かどうかわからないんですが、高齢者の方の施策については、

対象者の数が今後減るといふ予測は到底あり得ませんので、そういった市全体のことを考えていくと、この公立保育園のことについても考えなければいけないという状況になったといふのは事実であります。

そういった中で、公立保育園を全部なくしてしまってる市もあるんですが、小金井市は、少しでも残したいと。あとは、残すに当たっては、建物だけではなくて、確保が難しい経験ある職員についても残ってもらって、新しい取組をやってもらいたい、その二つのところがこのサービスの拡充のところにつながっているといふ考え方になっています。

私たちの方針案の考え方をご説明させていただいているので、ご理解をいただくかどうかといふのは、今後だと思っておりますが、そういうような歴史的な経過もあつての今があるといふことだけ、ご答弁させていただきます。

○三浦保育課長 一旦よろしいですか。

ごめんなさい、あと予定時刻まで15分ぐらいですが、皆様方、ご発言いかがでしょうか。

じゃあ、一番後ろの女性の方。男性の方、少しお待ちください。すみません。

○参加者 ●●●と申します。今日はありがとうございました。

本当にもうこれ、私の率直な気持ちになってしまうんですが、私の子ども自身、3人とも公立保育園に0歳からお世話になってますので、本当に3人とも小金井の公立保育園と一緒に子育てをさせてもらったといふような気持ちですので、今回の廃園に関しては、すごく本当に残念だなと、悲しいなといふ気持ちが本当に率直な気持ちです。

今後3園を廃園にするといふことで、いろいろ資料も出していただいて、今回お話も聞かせていただいて、廃園にするメリットといふのがどうしても私の中では財政面だけのことのメリットしか、自分の中で見つけられなくて、未来ある子どもたちのために、財源をそこから削るといふのは、やっぱりもう一度考え直していただけないかなといふのが本当に率直な気持ちです。

ちょっと一つ質問といふか、聞いてみたいなといふことなんですが、現場で働く先生方といふのは、どういう意見が出てるのかなといふのが気になってまして。例えばこの段階的に縮小していくことに対して、子どもに対してこういう保育で不安があるよとか、特に残り2園に集約することによってこういうメリットがあるんじゃないかとか、そういうのって、現場で働く人と保護者、やっぱりちょっと考えが違ふ部分もあるのかなと

か思ったりして、そういった意見というか、お話というのは何か出ているのでしょうか。  
以上です。

○平岡保育政策担当課長 現場からの声というところでは、現場からの声という部分でいきますと、いわゆる職員団体といいますか、労働組合さんとお話合いなどで直接現場の声を聞かせていただくということはあります。そういった中では、やはり様々な声をいただいているというところはあるかなというふうに思っています。

具体的にこれを進めていく上での心配事については、今後、細かくお話をしながら進めていかなければいけないというふうに思っています。ですので、これ自体について、同じ組織の中の職員ですので、いい、悪いというような、そういうような意見交換はなかなかしにくいところではあるんですけども、やはり現場として、お子さんが一番大事ですので、そのお子さんがなるべく困らないような方法というのは、今後も現場と意見交換しながら、進んでいくことになればですけども、お話を進めていければというふうに思っています。具体的にこのお子さんの今後どうしようとか、そういうようなところまでお話をしているわけではないんですが、今回、市のほうで出させていただいた案が、当然、不足する部分があれば、やはり現場の声も十分聞きながら、よりよい方向にしていきたいとは思っております。

○三浦保育課長 一回、いいですか。よろしいですか。ありがとうございます。

では、中央の男性の方。

○参加者 すみません、ありがとうございます。

私の子どもも公立の保育園に通わせていただいている、非常にいい環境を用意していただいているなというふうなことを日々感じております。その中で、今後、今お話しただいた中で、保育のニーズの多様化であったりとか、財政面であったりとか、いろいろあると思うんですけども、今回、三つの園、その中でちょっとわかたけだけまだ未定な部分が多いというところで、将来のところでは気になっているところがありまして、例えば保育園を民営化どんどんしていくというところで、市によっては全部、全ての園が民営化されているというところもあるということなんですけれども、そうになると、例えば保育園の質になるんですかね、そういったコントロールというのは、どれぐらい可能なのかということが非常に心配だなと思っています。例えば一つの園にとっても、例えば職員の方が退職してしまったりとか、また、園の設置の場所ですね。それによって、人気、不人気というところも出てくるんじゃないかなと思います。もちろん私立で、

株式会社になれば、利益の出ないところでの保育園開設というのはやらないのかなというふうに考えると、例えば駅前にばかり集中してしまったりとかいうようなことも考えられるんじゃないかなと思っております。

特にわかたけの場所というのは、ちょっと外れていて、ここしかないんじゃないかなというぐらいのピンポイントにあるような園ですので、この辺りの方は非常にありがたいところに設置しているんじゃないかなというところで、先ほど小金井市全体で一つのエリアとして見ていくというところでありましたけれども、とはいえ、今この場所から小金井市の駅越えて、反対側に行くというのも変な話になるのかなと思うので、そういったある程度、ニーズの多様性というところからも各地にある程度散らばった保育の質というのも大事になってくるんじゃないかなと思っていますが、その辺りはどうなのかなということと、先ほどあったように、私立、株式会社というところで、もしこちらの、例えば市の意図と違って、撤退が相次ぐというようなことがあった場合、保育の担保としてどのようなことをお考えなのか、ちょっと教えていただければと思います。よろしくをお願いします。

○平岡保育政策担当課長 大きくは地域バランス、それと、あと、民間さんの撤退のリスクなどのお話もあったと思います。最初に、市長からも申し上げさせていただいたとおり、小金井市は、公立保育園を全てなくするという考え方は持っていません。そういった部分とは同じというわけではないんですが、公立保育園が質のコントロールを民間さんに対して行うというようなところまでは上下関係というか、そういうような関係性はないというふうに思っています。

ただ、そうはいいいながらも、やはり行政機関として、どのように一緒に質を上げていくかという視点では、園だけではなくて、保育課も含めて、民間と一緒に質を上げていく取組は、先ほど市長から幾つか申し上げたような取組で上げていかなければいけないというふうに思っています。

ただ、質自体というのは簡単に上がるものではないと思っていますので、少しずつでも、できるところから積み重ねていく必要があるというふうに思っていますので、そういった面からいいますと、やはり私たち行政職だけではなくて、現場で経験を積んだ保育士という職員も必要になってくると考えております。

それから、地域の偏在というお話でしたけれども、この地域は別に意図的にというわけではないんですが、なかなか土地の確保の関係もあったのか、今まで開設を進めた時



期には、ご相談自体もあまり来なかった状況はありました。そういった中で、例えば線路の北側ですね、小金井公園の近くに民間さんで気持ちがあつて、その地域が気に入つて、保育園を二つほど今運営している保育園もあります。ただ、そちらについて、やはり倍率などを拝見すると、駐車場があつても、なかなか倍率が高いとは言えない状況もあつたりしてますので、市としても、そこが、整備を進めていく上でとても悩ましいといえますか、そういう部分はあるんですが、民間さんでもいろいろな考え方があつて、駅の近くを選ばない民間保育園さんもありますので、そういった部分はあるかなと思つています。

それから、撤退のリスクの部分についてですけれども、ほかでもご心配の声をいただくんですが、東京都にもこのところで話をしたことがあるんですが、いわゆる東京都が認可する認可保育園についての急な撤退というような話は、このところで出た例はないというふうに聞いています。

新聞報道などでよく話が出ているところは、いわゆる認可外と言われる個人契約で行っている保育園さんの例などは聞くんではすけれども、認可については、基本的にはないという状況もありますし、いかに株式会社さん、利益がというところはあると思うんですけども、基本的には、国のほうで保障された運営費の基準がありますので、それに加えて、市のほうでの運営費の補助なども使いながら運営をいただいているということから、基本的に突然撤退するというようなお話ではなくて、仮にそういうお話があつたとしても、計画的にご相談が来て、それについて、市からもご意見は当然言わせていただく機会はあるかなと思つていますが、ご心配されているような、突然のようなお話というのはちょっと想定されにくいとは思つております。

以上です。

○三浦保育課長 一回、よろしいですか。

あと5分ぐらいお時間あるんですけども、皆様、いかがでしょうか。

1回目に、まだ、一回も発言されてない方でご発言される方、いかがでしょうか。

○参加者 ご説明ありがとうございました。

先ほど出た質問とちょっと重複してしまうんですけども、こちらの総合的な見直しの方針案は、保護者に理解を求めて進めていくのか、それとも、理解を求めつつも、明示的な理解というものを求めず、市議会のほうに出していくのか、こちら、どちらになりますでしょうか。

○西岡市長 ご質問ありがとうございます。

私といたしましては、保護者の皆様方の理解を求められるように、これからも努力をし続けてまいります。そして、説明を尽くしてまいりたいというふうに考えております。

したがって、今般、実に様々なご質問やご意見、ご要望をいただいております。その中で、私どもとして、改善できる点、追加できる点などなど、しっかり反映できるところについては、最大限努力をして、引き続き臨ませていただきたいと思います。市長といたしましては、皆様方の説明や、こういった意見交換の場、対話の場というもの大切にしながら、説明を尽くしてまいりたいというふうに考えております。

そして、市議会も、これはご議決が必要になる、条例改正ということになりますから、市民や市議会の皆様方への説明にも、これから一生懸命尽くしてまいりたいと考えているところでございます。以上です。

○三浦保育課長 よろしいですか。

○参加者 はい。

○三浦保育課長 じゃあ、1巡目の方はよろしいですかね。では、2巡目の方に回っていきます。女性の方、お願いできますか。

○参加者 すみません、12ページの特別支援保育の拡大とアレルギー対応のところについてなんですけれども、公立保育園が少なくなることによる不安の一つでもあって、やっぱり園自体が少なくなることによって、ここら辺、残された園で拡充するとしても、公立保育園で対応できるこういう特別な対応をしているところの児童数が減ってしまうんじゃないかなという懸念があって、実際こういうところって民間保育園さんがなかなか対応できてないところが多いのかな。実際、私の知人で民間保育園で表向きアレルギー対応しているというふうになっているところも、実際入園しようとしたら、アレルギー対応が難しく入園拒否されたというような事例を聞いたことがありまして、そういうことが民間保育園であったりすると不安だなというふうに感じまして、なので、ちょっとここら辺のところについて伺えると。

○三浦保育課長 特別支援保育の関係について。

○平岡保育政策担当課長 ほかの会でも、やはりご心配な声というのをいただくことは確かにありました。この特別支援保育の部分ですけれども、公立保育園自体にも、ここに書かせていただいているように、ずっと昔からの宿題がありまして、3歳以上という受入れ枠というのが一つ宿題になっていました。これについては、今回のこのタイミングで職員を確保

することで撤廃をしようというふうを考えております。

公立保育園で預かっているお子さんに対して、民間保育園のほうでなかなか特別支援保育というか、特別な配慮が必要なお子さんの受入れが難しいというようなご質問の部分でございますけれども、民間保育園さんについても、預かっている例というのは確かにあります。今年の3月のデータですけれども、18園で37人という受入れ実績があります。

ただ、個別具体的なお話もいただいているところがあるかなと思ってまして、やはり公立もそうなんです、民間さんについても、様々なお子さんの受入れについては、私たちが、この公立保育園の数がどうなるかは別として、働きかけはさらに行っていかなければいけないというふうに思っています。ただ、園のほうで担当する職員の方の確保ができるかどうかですとか、クラスの中で、そういうお子さんを見ていけるかどうかなど、職員体制の部分も関係してくる場合があるものですので、市のほうも確実に受けていただくかどうかというところまでは難しいんですが、今よりも受入れについては、ご協力をいただくように働きかけを行っていきたいというふうには思っております。

以上です。

○三浦保育課長 男性の方、お願いいたします。

○参加者 公立保育園を廃園にしまして、その財源をもって、新しい多様なサービスを拡充していくというお話の中でありまして、公私連携というところをすごいお話しされていましたが、この公私連携に関しましては、廃園をしまして、公立保育園が減ってしまう、例えば2園になってしまった中で、じゃあ、私立保育園は幾つあるかって、50以上ありますと。そのバランスというのは果たして適正なんでしょうかというのがすごい非常に疑問に思っております。公立保育園ならではの役割があるというのは、保育検討の場でもありましたし、役割はありますと。

では、どうしてそれが2園でできるのかというところは、正直、示されていないと私は思っていますし、現在、私のほうも納得できていないというところですね。ここについては、きちんと検討されているかもしれないんですけど、検討されているのであれば、そこはきちんと示していただきたい。されてないんだったら、改めてそこは深く検討して、本当に2園ということが適正なのか、5園あつてしかるべきじゃないかというところにもしかしたらたどり着く可能性もありますので、そこはきちんと示していただきたい、説明もいただきたいと思っております。

という点と、あと、公立保育園の廃園に関しても撤回を求める署名というのがされまして。その中で、陳情書でしたり、要望書というのは、6,000以上の陳情書と、4,000以上の要望書という形で市に提出されておりますけど、これは、なぜこの市民の意見を聞いていただけないのかなというところについて、ご意見を伺いたいと思います。

以上となります。

○平岡保育政策担当課長 では、まず、公立保育園の適正な数というところがございます。これについてなんですけれども、まず、今5園ある、この数自体、何か理由があって5園になっていないというのは、ご存じの方もいらっしゃるかもしれないんですが、昭和50年に5番目のけやき保育園ができたんですが、特に5園、こういう理由で5園だというような形のは、申し訳ないですが、ちょっと行政のほうでは、資料が古かったこともあって、理由は見つけられなかったという状況がありまして、それ以降、公立保育園は増えていないという実態があります。確かにおっしゃるとおり、他市の事例では、例えば公立保育園を拠点のような位置づけにして、公立保育園を中心とした民間さんとのネットワークみたいな考え方を示されている市もあるかなというふうに思っているんですが、私たちとしては、園を拠点として中心に展開するという形ではなくて、そこに行政の保育課のほうも入って、全体でネットワークというか、そういう形の仕組みづくりをしていこうということで考えたのが巡回支援チームということになります。

公立保育園自体にも、そういった支援、協力をしてもらうために職員を増強するんですけども、やはり先ほども申し上げたとおり、なかなかそういった職員を増やしていくというのが、自治体の職員を増やすというのがなかなか難しい中で、経験がある職員を確保しつつ、園を維持していくというのがなかなか厳しい状況があります。ですので、実は、民営化のときにも内部で検討していたときに、このサービス拡充を行っていくために職員を生み出すとすると、公立保育園にいる経験ある職員をどのくらい必要なかというようなことを検討したことがありました。そういった中で、実は見直しに入っていた関係もあって、1園分の職員ではなかなか難しい状況があったものですので、2園ないと、この書かせていただいているサービスの拡充というのは、2園目までいかないという状況になったところなんです。

ですので、おっしゃる形での検討の仕方というのものもあるかとは思いますが、先ほども申し上げたとおり、公立、民間で上下関係という状況でもありませんので、や

はり保育課も含めた全体の中で、一緒になって保育の質を上げていくというような方向性として、今回方針案を出させていただいたという形となります。

私のほうからは以上です。

○西岡市長 冒頭にも申し上げましたように、様々な方から多様な多くのご意見をいただいております。市議会に提出されている陳情などについても、我々ももちろんよく承知しております。そういう状況でありますから、まずは8回の説明会を開催し、私たちが説明を尽くし、このような形での意見交換、対話の機会というのも積み重ねてまいります。

まずは、私たちの本意、考え方というものについて、ぜひ聞いていただく、そういう機会を、これまでできてませんでしたから、そういう機会をつくらせていただいて、意を尽くしてまいりたいと、努力してまいりたいと。今日、6回目ということでもありますけれども、これからもしっかり臨ませていただきたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

○三浦保育課長 すみません、ちょっと私の司会進行もまずくて申し訳ありませんでした。少し予定を過ぎてますが、最後に、これだけはという方、何かご質問ございますか。2巡目でも。

じゃあ、最後で、よろしいですか。

○参加者 最後と言われてしまうと、ちょっと恐縮してしまうんですけど、今いただいたご意見についての返答なんですけど、まず、巡回を増やすために、あたかも廃園をしなければいけないようなふうに私は聞こえたんですね。その人材が必要ですよ、それを集められないので、じゃあ、廃園にして、その職員の方を充てましょうと。

これって理由としては、ちょっと矛盾、おかしくなっちゃって、そもそも廃園をして、人が行くから、その人員を活用しましょうだったら分かるんですけど、人員が必要なので廃園しましょうという理由づけになってしまうので。今回、廃園をする理由としても、理由としては、まずは矛盾していると思っています。ですので、説明に対して答えられてないというのを私は今、聞いてて思いましたということが1点と。

あと、市長もありがとうございます。

陳情書、要望書については受け取っていただいて、ですから、この説明会を開いているということでしたら、いや、私たちはこの説明を聞いて、納得いかなかったら、じゃあ、どうなるんですかというお話になるんですね。そういうお話だったと思いますけど、では、その先はどうなるんですかと。これについては、まずは、聞いていただいて、説

明会を開いていただいたのなら、その後の話としても、やっぱり、じゃあ、説明して終わりということはないと思いますし、説明いただいて、私たちが納得いかないという中で、じゃあ、どう進めていくかというところはきちんと答えていただかないと、今日はこのまま帰れないと私は思いました。

説明会を開いてもらうことを陳情書、または要望書で言いたかったわけではなくて、あくまでも撤回というところを出しておりますので、そこはちょっと答えとしては違うのかなと思いました。どのようにお考えですか。

○平岡保育政策担当課長 では、一つ目のほうは、私のほうでお答えさせていただいたので、すみません、おっしゃるとおり、ちょっと質問の趣旨と答えがずれてしまっていたところはあったかなというふうに思っています。公立保育園の数の適正が幾つかというお話をいただいたので、それに対する考え方としてお伝えしたつもりでございました。

廃園の、今回の段階的縮小の一番大きな理由は、当然、待機児童が減ってきてるとか、さらなるサービス拡充をしたいとかというのものもあるんですけども、やはり一番のところは、老朽化する施設、それから、今後の小金井市全体の市政運営、そういった部分を考えたときに、子どもの安全を守るためにやむなく選択したものだというふうなお話を最初にさせていただいていたと思いますので、そこから理由としてちょっとぶれていたとすれば、大変申し訳なかったなというふうに思っております。

ただ、公立保育園を5園維持していくというのは、ここまで維持してきたわけですけども、やはりそれでも難しいという状況になってるというようなご説明は、先ほど市長からもさせていただいたとおりにいうふうに思っておりますので、そういった観点が今回の理由としては一番になるかなというふうに思いますので、先ほどのお答えがもし誤解があるとすれば、そのように訂正をさせていただきたいと思います。

○西岡市長 1点目につきまして、今、担当からご答弁させていただいた内容でございます。1問目のときに、私もお答えをさせていただきましたが、今般の方針案をまとめざるを得なかった背景や課題、また、これから目指そうとしているところについては、重複しますので、ご答弁は避けますが、そういったことでございます。

今日、撤回すべきだという、今日の説明会を終えてのご意見は受け止めさせていただきたいと思います。多様なご意見をいただいておりますので、まずは、6回、そして、2回の市民説明会、合計8回開催し、先ほども申し上げましたように、そこで出された意見というものは、我々は踏まえて、引き続き検討し、そして、1回やって、もうおし

まい、あとは一切お会いしませんということは、私は考えておりませんので、引き続き保護者や市民の皆様方にご理解をいただけるように、改めて臨ませていただきたいと、このように考えているところでございます。

以上です。

○三浦保育課長 皆様、よろしいですか。

○参加者 だから、その先を聞きたいというか、その理解ができなかった場合、撤回を受け入れられるんですかというところを聞きたいんです、はっきりと。

○西岡市長 現時点では、私どもとしては、この方針案について、理解が得られるように説明をしっかりと尽くしてまいりたいと。これからも説明を尽くしてまいりたいと思っています。したがって、今日1回でおしまいということではもちろん考えてございませぬし、出されたご意見を持ち帰って、これまでも6回の中で実に様々のご意見をいただきましたから、そういったものを踏まえて、判断してまいりたいと思っております。

しかし、私、市長といたしましては、これだけの検討を重ねてきたという経過がございまして、この方針案というものについて、まだまだ現時点ではもちろん案なんですけれども、説明をしっかりと、修正できるところは修正しながら、多くの方々にご理解をいただけるように、まずは努力をしてまいりたいと、そのことは申し上げたいと思っています。

○参加者 質問に答えていただきたいんですけど、なぜ署名を出したものが受け止めてもらいませぬ、分かりましたで終わっちゃうのかというところを聞いているんですね。なぜ私たちの声が届かないのか、それはなぜ反映されないのかというところについて説明をしていただきたいと思っています。

あと、もう一つ、平岡さんに関しましては、連携というところに関しては、そこに関していうと、やっぱり5園必要なんじゃないですかというところを私は思っているんですね。5園なのか、4園か分かんないんですけど、2園ではとても足りないんじゃないですかというところは思っていますので、そこはきっちり議論していただきたいし、それをここに書くのであれば、それを今後連携をしていきたいとか、そういうことをしていきたいというのであれば、それはやはり5園じゃないか、2園じゃないかというところはきちんと議論していただいて、その旨を説明していただきたいというふうに思っています。変わらないですけど。

○平岡保育政策担当課長 現時点において、今おっしゃっていただいたこと自体、私としても阻むもの

では全然ないんですけども、ただ、今回、この考え方については、どういう考え方かというところでは、先ほどお答えさせていただいたとおりとなります。

その後の対応についてということでありますけれども、今ここで、そういう検討をする、しないというようなお話をさせていただくような部分では、私はないというふうに思っております。先ほども市長からお伝えしていると思うんですが、この後、市民説明会というのも用意させていただいています。当然、撤回の要望書、それからまた、陳情も出ているのは、こちらとしても認識しているところではあるんですけども、それに対して、私たちとして、まず、不足しているのは、やはり説明であったり、今回、意見交換という言葉が適切なのか、ご質問に対する回答という言葉が適切なのか分からないんですが、こういう場がそもそもまだ行われていること自体が少ないというふうに思っておりますので、今の時点で、私たちの考えに対して、こういうやり取りをさせていただいている回数というか、期間が短い中で、皆様からの思いを受けて、それに対してすぐイエス・ノーの答えを出すというようなものではないというふうに思っておりますので、それだけの方が反対されている、残してほしいというお気持ちがあるというのは、今、私たちとしては思っておりますけれども、それに対して、私たちとしては、まだ内容をご説明したり、ご意見をこういった形で伺ったりと、させていただく段階だというふうに思っておりますので、今の時点で、その後どうするかというところまで、何か基準があって決めているようなものでもございませんので、今はまずは説明をさせていただいて、ご意見を直接伺わせていただきたいと、今そういう時期だというふうにお答えをさせていただきたいと思っております。

○三浦保育課長 よろしいですか。

○参加者 ご意見をいただいている時期であれば、それは議会にかけることは、今の段階ではない、その段階ではないというふうに聞こえましたが、その認識でよろしいでしょうか。

○西岡市長 現時点では、保護者の方や市民の方々とこのようなやり取りをしている渦中、段階にあるというふうに考えております。

○三浦保育課長 よろしいですか。

それでは、以上をもちまして質疑応答を終了させていただきます。

先ほどもご案内したところでございますが、本日の説明会につきましては、会議録を作成いたしまして、個人の方が特定されない形で、市のホームページにて後ほど公開をさせていただく予定でございます。



以上をもちまして本説明会終了させていただきます。本日はご多忙の中、ご参加をいただきまして、誠にありがとうございました。

閉 会